

## 聴覚障害者を対象とした健康診断の受診に関する不便さ調査

タカハシ エイコウ ナカダテ トシオ  
高橋 英孝\* 中館 俊夫\*

**目的** 聴覚障害者が健聴者と同様に健康診断を受けられる環境を構築することを最終目的とした研究の一環として行うものであり、健康診断を受診する際の問題点の把握と問題解決の方法を考察することを主目的とした。同時にろう者と中途失聴・難聴者の健康診断受診に関する特性および対応策の違いについても明らかにする。

**方法** 東京都聴覚障害者連盟（以下「東聴連」）会員250人と東京都中途失聴・難聴者協会（以下「中難協」）会員100人を対象としてアンケート調査を実施した。調査項目は、健康診断の受診歴、受けたことのある検査名、検査を受けるときに困ること、検査を受けるときの対応、病院に対して希望する対応、医療機関での情報保障などである。調査票の回答頻度を集計すると共に、検査を受けるときに困ること、検査を受けるときの対応、病院に対して希望する対応の3項目については東聴連と中難協との間で比較を行った。

**結果** 回答数者は151人で、男性56人、女性96人、不明2人、平均年齢54.8歳であった。健康診断を毎年受診している者は50.3%、一度も受けたことがない者は17.9%であった。検査を受けるときに困ることでは、順番が来たときに名前を呼ばれてもわからない、指示がわからない等が多かった。希望する対応としては東聴連会員が手話と文字での情報保障、中難協会員が文字による情報保障であった。

**結論** 聴覚障害者は健聴者と比較して健康診断の受診率が低く、名前を呼ばれてもわからないことや指示がわからないことで困っていた。希望する対応はろう者と中途失聴・難聴者とは異なり、聴覚障害者に対する情報保障の方法としては手話と文字の両方が必要である。

**Key words** : 聴覚障害者, 検査, 健康診断, ハンディキャップ, バリアフリー

---

\* 昭和大学医学部衛生学教室  
連絡先：〒142-8555 品川区旗の台 1-5-8  
昭和大学医学部衛生学教室 高橋英孝